

**製品名: MEK7 (5S16) ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe13809**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,FC,IF-P
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.42mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:50-1:200,FC 1:50-1:200,IF-P 1:50-1:200
分子量	47kDa

**抗原情報**

遺伝子名	MAP2K7
別名	MKK7; Jnk2; MAPKK7; PRKMK7; JNK-activating kinase 2; MAPKK 7; Mitogen Activated Protein Kinase kinase 7; SAPKK4; stress-activated protein kinase kinase 4;
遺伝子 ID	5609.0
SwissProt ID	O14733
免疫原	ヒト MEK7 の合成ペプチド

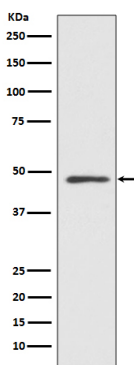
## 背景

MKK7はTNF- $\alpha$ やその他の環境ストレスによって強く活性化されますが、p38とSAPK/JNK経路の両方を活性化するSEK1/MKK4はTNF- $\alpha$ によって活性化されません。MAPキナーゼファミリーメンバーの活性化ループの配列アライメントは、Ser271とThr275がキナーゼ活性に重要な潜在的なリン酸化部位であることを示しています。MAPキナーゼシグナル伝達経路の必須コンポーネントとして機能する二重特異性タンパク質キナーゼです。ストレス活性化タンパク質キナーゼ/c-Jun N末端キナーゼ (SAP/JNK)シグナル伝達経路の必須コンポーネントです。MAP2K4/MKK4とともに、ストレス活性化タンパク質キナーゼ/c-Jun N末端キナーゼMAPK8/JNK1、MAPK9/JNK2、MAPK10/JNK3を直接活性化する唯一のキナーゼの1つです。MAP2K4/MKK4とMAP2K7/MKK7はどちらもリン酸化によってJNKを活性化しますが、Thr-Pro-Tyrモチーフのリン酸化部位に対する好み異なります。MAP2K4/MKK4はTyr残基のリン酸化を好み、MAP2K7/MKK7はThr残基のリン酸化を好みます。JNKのThr残基のモノリン酸化はJNK活性を増強するのに十分であり、MAP2K7/MKK7がJNK活性を誘発するために重要であることを示しています。一方、MAP2K4/MKK4によるTyr残基の追加リン酸化は、最適なJNK活性化を保証します。炎症性サイトカインによって活性化されるJNKシグナル伝達経路において特定の役割を果たします。MKK/JNKシグナル伝達経路は、シトクロムcの放出を含むミトコンドリア死シグナル伝達経路にも関与し、アポトーシスを導きます。非標準的なMAPKシグナル伝達経路の一部であり、上流のMAP3K12キナーゼと下流のMAPキナーゼMAPK1/ERK2およびMAPK3/ERK1で構成され、APOEにตอบสนองしてAP-1を介したAPPの転写を強化します(PubMed:28111074)。

## 研究分野

シグナル伝達

## 画像データ



Hela 細胞溶解物中のMEK5発現のウェスタンブロット分析。